

ハス田の侵略者を放置しないで！！

オオフサモ、ナガエツルノゲイトウ

オオフサモやナガエツルノゲイトウは生態系や農業へ悪影響の恐れがある「特定外来生物」です。ハス田や畦畔への侵入や増殖を放置すると、手がつけられない状態になってしまうため、注意しましょう。

オオフサモ

1 特徴

- ・ 南米原産の多年草。ハス田や水路など、水深が浅い場所に生育する。
- ・ 節から葉や根を出して増殖し、繁茂すると水面を覆う。
- ・ 節があれば、茎の断片からでも増殖する。
- ・ 耐寒性があり、繁茂していると、水上部が完全に枯れないまま越冬する。
- ・ 土浦地域では“きんぎょ”と呼ばれている。



ハス田での発生



水面を覆われた水路

2 判断のポイント

- ・ 葉は、白っぽい緑色で、鳥の羽のような形（羽状葉）である。茎の節に3～7枚ずつ輪生につく。
- ・ 根茎は、うすい赤紫色で根茎の各節から数本の根を出す。長さが1m以上となることもある。



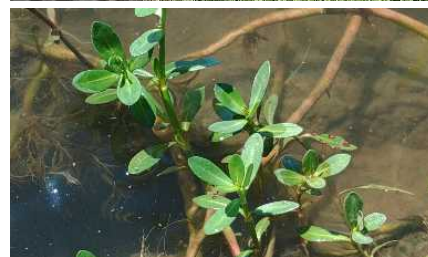
羽状葉



ナガエツルノゲイトウ

1 特徴

- ・ 南米原産の多年草。霞ヶ浦沿岸のハス田で発生が確認されている。
- ・ 水面上に茎や葉を伸ばし、水面を覆う。
- ・ 節があれば、茎の断片からでも容易に増殖する。
- ・ 乾燥に強く、水辺だけでなく陸上にも侵入する。



2 判断のポイント

- ・ 葉は節から対に生えており、茎の中は空洞である。
- ・ 葉や茎のみでは判断が難しく、夏～秋頃に開花した花の着生位置で判別する。
- ・ 花はシロツメクサに似ている。他のツルノゲイトウと異なり、花の柄が長いのが特徴。



対策の注意点(オオフサモ、ナガエツルノゲイトウ共通)

- ・ 増殖すると、水路やハス田を覆って栽培に影響するため、絶対に放置しない。
- ・ 植物断片から容易に再生するため、発生地では刈払機を使って除草しない。
- ・ 小発生の場合は、根付いたり断片が拡散しないよう袋に密閉するなどして、必ずその場で枯らした後、自治体のごみ処理方法にしたがって処理する。
- ・ 取水口に金網やネットをはり、侵入抑制に努める。
- ・ ナガエツルノゲイトウが水田畦畔に発生した場合は吸収移行型のグリホサート系除草剤を使う。ただし、根が生き残っていると再生するので、処理後もよく観察する。崩れやすい畦畔では、接触型の除草剤を使う(表1)。



表1 ナガエツルノゲイトウに水田畦畔で使用できる除草剤

商品名	使用時期	剤の使用回数	成分	成分使用回数	備考
ラウンドアップ マックスロード	収穫前日まで (雑草生育期)	3回以内	グリホサート	3回以内	吸収移行型 特にドリフト注意
プリグロックスL	雑草生育期	5回以内	ジクワット パラコート	5回以内 5回以内	接触型

資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する方は、必ず使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。農業登録確認日 R6年10月2日